

被災地訪問が復興の力に

～2011年福島平和バスツアー～

26期 ^{おかだ}岡田 ^{みのり}美乃利

富山市の「水橋九条の会」(略称・「会」)では、2006年結成以来、毎年行っている1泊2日の平和バスツアーを6年目の今年は大震災の被災地・福島へ11月26日、27日に行こうと決めました。

ここで一言「会」の活動について触れさせていただきます。

水橋地域は6000世帯で、そこへ毎月発行の「水橋九条の会」ニュースを約10日前後かけて200名ほどの人が手配りで届けています。そして、毎年結成記念集会を富山市の水橋の施設で300名近くが集まって記念集会を行っています。私はその事務局長をしています。

福島訪問だけでも「風評被害克服」に

さて福島への旅行ですが、ホテルは事前に予約をし、現地での案内を福島農民連にお願いしたところ事務局長さんに了解して頂きました。

「福島へ行くのは12名だが、ほとんど60代～70代でボランティアとしての肉体労働はまるっきりダメなのです。その上、時間を割いてガイドまでお願いして申し訳ありません」と言う私に佐々木さんは「いいえ、そうではありません。みなさんがホテルなどに泊まっていたらお金を落としていただくことが、私たちが風評被害などを克服していく力にもなり元気になります。本当にありがとうございます」と言われました。これは私達には救いでした。

レンタカーのマイクロバスで北陸道～磐越道を走ること6時間、最初に訪れたのは福島の大内宿。茅ぶきのお土産物屋や食堂などが道の両サイドに約60軒並んでいる昔懐かしい町並みだ、とガイドブックとネットでの予備知識を得ていました。実際散策していると小さい子供の頃を思い出し心が和みました。箸の代わりに長いネギでそばをいただき、お酒も本当、美味しかったですね。大内宿、人里離れた海拔700mで観光客が年間100万人訪問する観光地だそうで、26日もさすが人々々でした。

昔、宿場として機能していたとき、平屋建て

しか許されなかったためだそうです。

宿は磐梯熱海の『かんぼの宿・郡山』。ホテル内は浴衣でOK。大浴場でゆったりと温泉に浸かり、気分爽快。夕食も会津の山の幸があり、本当、美味しかったです。

27日は朝、8時ホテルを出発。ガイドをしていただける30歳過ぎの青年福島農民連事務局次長さんとは福島西インターで合流。

悲鳴、怒り、不安に胸の痛み

被災地の相馬市と南相馬市を訪れました。3.11より8ヶ月が過ぎているのに、ガレキの集積場は下車して見たところでは、まだ船が1箇所でも10隻以上も放置されたまま。まるで船が悲鳴を上げているようでした。また、1階は津波で突き破られたままの日通の倉庫、3～4km先の海岸まで何も残っていない農地跡や住宅地跡。胸が締め付けられました。



津波で倉庫が突き破られた前で参加者・南相馬市
右端 岡田さん

飯舘村へも行きましたが、バスからの下車は禁止、車窓から眺めるだけでしたが、人影はなし、車だけが、たまに行き交うだけの村。人は見ませんでした。まるで「早く村へ帰りたい」と村人の多くの方が、命の叫びを大声で発しているかのようでした。

胸にジーンとききました。誰であっても「故郷を捨てて他所へ行って」など口が裂けても言えないことですが、これが現実です。

あらためて、原発神話が「お早う」のあいさつも会話も一切出来ない村に、人との交流、家族の団欒を奪い、子供たちが外で遊ぶことを奪ってしまった、人の尊厳を根本から、文字通り、根こそぎ否定した現実を目の当たりにして、やはりいまの日本の方向を切り替えないと

日本はダメになるのではと思いました。

東日本大震災の上に、日本の西の方で、例えば浜岡原発や福井県の原発で何かがあれば、日本は世界に相手にされないどころか、日本では生きていけないのではという、架空の心配でなく、現実の心配としてずしりと胸に響きました。

ガイドの中で県内の全小学生にガラスバッジ（線量計）をつけ放射線を測定する、測定といっても素人では測定値を出すことはできず、一定期間過ぎると、専門の機関で結果をだすことが出来る。寝るとき、遊ぶとき、入浴のときなどどうするのか、最初は1ヶ月のバッジ、現在は3ヶ月のバッジ、測定しなければ生活できない、何て大変なことだと思いました。

さらに、いたる所で見かけた屋根にブルーシートの家々、屋根や瓦の修理工事をお願いをしても修理依頼が沢山あって順番待ちだとか、雪の到来前に間に合うのだろうか、と思いました。

福島が近くになった…。

最後に水橋で、いろんな方からお寄せいただいた物資を、富山から車に載せて持ってきた、毛布、衣類、米、そして家族で折られた千羽鶴など届けましたら、事務局長さんは「ありがとうございます。みなさんからお届け戴いた品物は、仮設住宅へ届けます」と、感謝の言葉。

1泊2日の福島への旅行でしたが、本当にいろいろ考えさせられた有意義な旅でした。